

NEDO懸賞金活用型プログラム
脳由来信号を活用した新システムの開発

NEDO Challenge, Exploring Neurotech New Markets

テーマ1 : パフォーマンス最適化ソリューション開発
テーマ2 : コミュニケーション革新ソリューション開発

別紙 : ルールブック

Why

なぜ
懸賞金事業を実施
するのか

国家として、日本発のニューロテック産業の“芽”を発見し、
将来的な国際競争力につながる基盤を育てることが目的

ニューロテック市場は未成熟で、**価値あるユースケース**や利用文脈がまだ十分に見えていない。
そのため、特定企業や研究者だけではなく、産業界・研究者・スタートアップ・生活者・クリエイター・倫理専門家等多様な人材の「集合知」を結集し、新しい価値領域を探索することが必要。

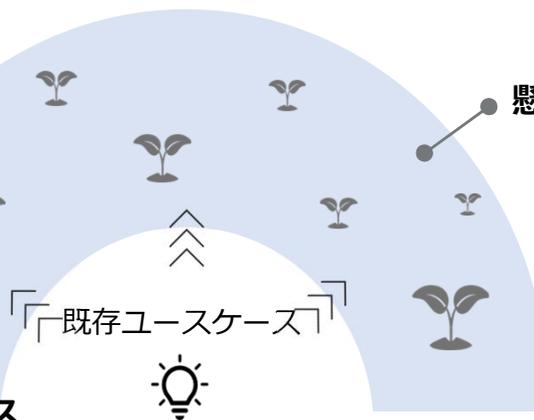
How

どのように
目的を達成するのか

多様なプレイヤー
(新規プレイヤー等)



新規性ユースケース



懸賞金事業範囲

既存事例とは**異なる価値**を示すことができる
新しい脳由来信号の活用を前提としたテーマ

What

最終的に
何を生み出すのか

国家戦略としての新市場形成及び将来の国際競争力につながる基盤

- ・人々の生活の質を向上させる新しいニューロテック・ユースケース
- ・日本発のニューロテック産業の「芽・基盤」となる技術・体験価値
- ・多様なプレイヤーが関わり続けるエコシステム/コミュニティ

チャレンジ終了後での理想的な姿

理想像

- 提案ソリューションによって、5年後で国内30億円の売上、経済波及効果としては3,000億円規模が見込めること（予選段階においては、5年後、国内におけるSAMが1,000億程度の新規市場開拓に寄与できる提案）*1
- 新しいビジネスパートナーシップの形成や共同研究等につながり、民間投資の誘発や社会実装に向けた次ステップへの発展が期待できること*2

評価する観点

- 本チャレンジにおいては、チャレンジ後新規市場開拓の実現性を重視した評価を行います
- 想定市場規模のみならず、そこでの市場獲得の可能性を説明する指標としてのアウトカムについても示していただくことを独自の仕組みとして設定します

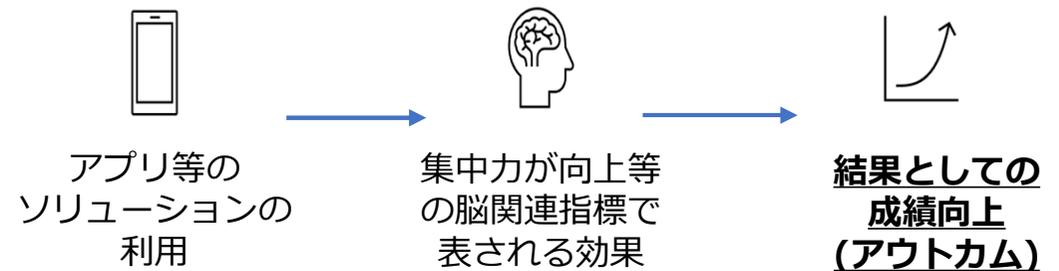
本チャレンジにおけるアウトカムについて

概要

新規市場開拓の達成可能性を説明する一つの指標として、アウトカム（ユーザー*3の実際の購買につながる提供価値）をそれぞれの応募者に設定していただきます

- 本選においては、そのアウトカムの結果をもとに競合優位性他、事業終了後の事業計画に関する蓋然性について説明いただきます

（例）本事業で求める範囲



イメージ

- 集中力が向上等の脳由来関連指標に関する議論に留めず、ユーザーの実際の購買につながる提供価値（例えば、アプリケーションを利用することで成績が向上する、等）を可能な限り定量的に示していただきます
- 設定したアウトカムが、ユーザーに受け入れられるものかどうかについても十分な検証を行った提案を、高く評価します

*1 : SAM (Serviceable Available Market) : 想定するソリューションが提供する『価値』によって創り出される市場の規模（同じ価値を提供する競合他社のソリューションも含む）

*2 : ヘルシンキ宣言等の国際的な倫理基準に沿った研究開発がされていることを前提とします。ヘルシンキ宣言：世界医師会（WMA）によって策定された、人間の参加を含む医学研究の倫理的原則の声明

*3 : 「ユーザー」は個人だけを想定しておらず、受益者（あるものから利益を受ける人）と購買者が異なるケースも対象とします。また、ユーザーの範囲はtoCに限らず、toB/toGも含まれます

製品・ソリューション

脳由来信号を活用した
パフォーマンス最適化ソリューション

脳由来信号を活用した
コミュニケーション革新ソリューション

Point③ 取得難易度の高い脳由来信号を使用した製品・ソリューションであるか？

本チャレンジで扱う脳由来信号の定義

Point① 使用するデータが脳由来信号であるか？

Point② データの信頼性が高く、妥当性の高い解析手法であるか？

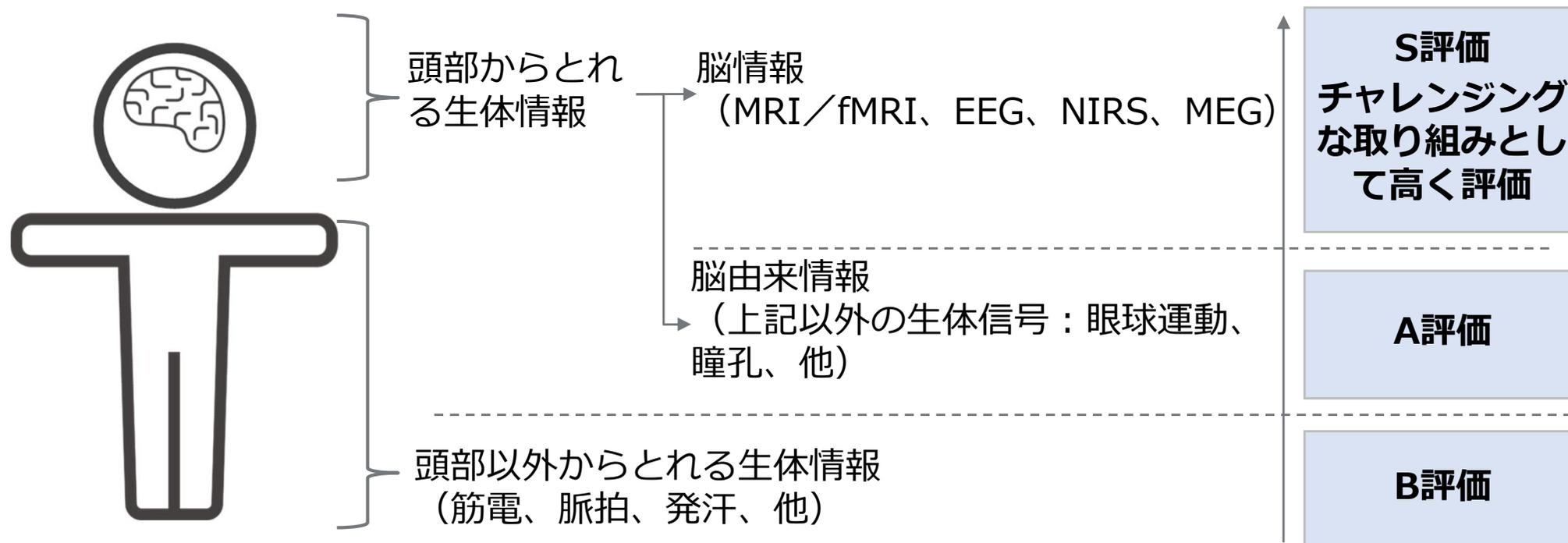


複数の生体情報を扱ったソリューションを提案する場合は、**主たる生体情報を評価の対象とします**

- *1：非侵襲の計測手法（身体組織を損傷・貫通・内部挿入することなく、皮膚表面または体外から脳活動または脳由来信号を取得する方法）で取得されたデータのみを対象とする
- *2：頭皮電位のうち、脳から生じる電気活動を分離・取得したものに限定
- *3：ソリューションで用いる指標が表す人間の内的状態またはその変化について、脳情報と使用する生体信号の関連が説明される論拠が必要
- *4：アーチファクト除去やノイズ処理を適切な手法で行えていること等を評価
- *5：設定した目的・アウトプットに対して、適切な解析手法を用いていることを評価

【参考】 本チャレンジにおける脳由来信号のランク判別イメージ

社会実装の面で技術的な難易度を考慮して評価します



【参考】脳計測技術の紹介

計測方法	概要	分類	応募対象	イメージ
EEG (脳波計)	<ul style="list-style-type: none"> 脳内の神経細胞のひとつひとつが情報伝達の際に発する電気信号を頭皮上から計測する技術 可搬性がよく、現場の作業員が装着しても邪魔にならない 	非侵襲	対象	  <p>医療用脳波計キャップ*1 簡易電極*2</p>
fNIRS (近赤外線分光法)	<ul style="list-style-type: none"> 近赤外線の光を利用して、頭皮上から脳の血流変化を測定し、血中の酸素化の状態や脳血流の変化を評価をする技術 運動中や赤ちゃんの脳活動も計測可能 	非侵襲	対象	 <p>NIRSの計測キャップ*3</p>
MRI/fMRI (磁気共鳴機能画像法)	<ul style="list-style-type: none"> 脳内の状態を断面像として描写する技術 脳の様々な情報を深く・精密に計測できる 大型ゆえに実環境における計測は難しい 	非侵襲	対象	 <p>MRI撮影機*4</p>
MEG (脳磁計)	<ul style="list-style-type: none"> 脳内の神経細胞のひとつひとつが情報伝達の際に発する磁場を頭皮上から計測する技術 磁場を活用することで比較的脳の様々な情報を深く・精密に計測できる 大型ゆえに実環境における計測は難しい 	非侵襲	対象	 <p>MEG計測機*5</p>
埋め込み型 脳計測機	<ul style="list-style-type: none"> 外科的手術によって電極や小型デバイスを埋め込み直接脳活動を計測する技術 	侵襲	非対象	 <p>埋め込みデバイス*6</p>

1. 画像出典：広島大学脳・こころ・感性科学研究センター(<https://bmk.hiroshima-u.ac.jp/blog/2019/10/01/eeg/>)
 2. 画像出典：脳情報通信融合研究センター(CiNet) 脳機能解析研究室 (<https://www2.nict.go.jp/oihq/seeds/detail/0066.html>)
 3. 画像出典：脳情報通信融合研究センター(CiNet) (<https://cinet.jp/japanese/research/facilities/>)
 4. 画像出典：脳情報通信融合研究センター(NICT) 3テスラMRI(<https://www2.nict.go.jp/oihq/seeds/detail/0043.html>)
 5. 画像出典：名古屋大学 脳と心の研究センター(<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/noutokokoro/machine/meg.html>)
 6. 画像出典：株式会社JiMED (大阪大学平田研究室発の医療機器ベンチャー企業) (<https://www.jimed.jp/>)

テーマ	脳由来信号を活用した パフォーマンス最適化ソリューション開発	脳由来信号を活用した コミュニケーション革新ソリューション開発
課題背景	仕事や余暇等の日常生活の充実に寄与する、脳由来信号を活用した画期的なソリューションの開発は十分に進んでいないのが現状です。個人や組織の目標達成、創造性の発揮といった生活の充実に向けては、脳の理解に基づき、さまざまな場面でパフォーマンスを最適化するためのソリューションが求められています。	言語・文化の違いや発話困難等、意思や状態が伝わりにくい場面が依然存在する中、ロボットやAIとの協働も拡大しており、新たなコミュニケーション手段が求められています。脳由来信号による内的状態の補足を通じて、多様な相手と円滑に意思疎通できる「新しいコミュニケーション環境」を実現するソリューションが期待されています。
課題内容	脳由来信号を活用した、社会における多様な活動場面における、個人及びチームのパフォーマンスを最適化する技術の開発	脳由来信号を活用した、多様なコミュニケーション環境における、相互理解を最適化する新しい表現及び支援技術の開発
技術イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習効率を最大化する環境設計 ・ 最適な休憩を提案する生活マネジメントシステムの開発等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非言語での意思伝達システムの開発 ・ 感情を理解するロボットコミュニケーションの開発等
期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゼロだったものをプラスにする（付加価値の向上） ・ マイナスだったものをゼロにする（コスト削減） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存のコミュニケーションの質の改善 ・ 新たなコミュニケーション手段の構築
キーワード	自己実現支援、パフォーマンス向上、心身の疲労低減、スキル発揮支援、モチベーション維持、余暇や自由時間の質向上等	相互理解、非言語、異文化・異言語、遠隔、共感、つながり強化、人とロボット、人とAI、孤立防止等
アウトカムの考え方	テーマ課題の「パフォーマンスを最適化」させるターゲット領域に応じたアウトカムを評価する 例) 教育：テストの得点の向上、習得期間短縮 スポーツ：得点や勝ち負け、ミスの減少 生活価値：日常生活における充足感や幸福感の増加、体力・運動習慣の向上	テーマ課題が目指す「コミュニケーション」の姿に応じたアウトカムを評価する 例) コミュニケーション性能の向上度 ユーザー負荷の軽減度 コミュニケーションの頻度 コミュニケーションへの没入度 情報の伝達量

時期	ステップ	概要	提出物
2026年 2/27～ 6/30	説明会& エントリー	本チャレンジの趣旨説明・ エントリー受付開始 (エントリー〆切：6/30)	<ul style="list-style-type: none"> 応募申請書（提案名、応募者情報） 提案書（予選用）
2026年 7月	予選審査 (技術・事業 評価)	提案書（予選用）に対する 書類審査を実施	
2026年 12月 予定	本選審査 (技術・事業 評価)	提案書（本選用）・デモ動 画等に対する審査を実施	<ul style="list-style-type: none"> 提案書（本選用） 倫理審査委員会*1証憑 or ヘルシンキ宣言に則って研究活動を実施した宣誓書 提案ソリューションに関する技術・アプリケーションのデモ動画 その他実験データやアルゴリズムコード
2027年 2月 予定	本選審査 (プレゼン 評価) & 受賞者決定	プレゼン評価（プレゼン・ 質疑応答）を実施し、上記 提案書、デモ動画の審査結 果と統合して受賞者を決定	<ul style="list-style-type: none"> プレゼン資料

*1：倫理審査委員会とは、臨床研究を実施するにあたり、ヘルシンキ宣言、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針等の趣旨に沿った倫理的配慮を図ることを目的とし、その臨床研究実施計画書が、臨床研究に参加する治験者の権利や安全を守り、倫理的観点及び科学的観点から審査検討する委員会のことです。

提出タイミング	項目	概要	内容
予選書類提出〆切	提案書 (予選用)	予選審査の提案書	<ul style="list-style-type: none"> 配布する予選審査提案書の章立て及びガイドに従って記載すること 提出ファイル：PDF ファイルサイズ10MB以下 日本語で作成すること
本選書類提出〆切	提案書 (本選用)	本選審査の提案書	<ul style="list-style-type: none"> 配布する本選審査提案書の章立て及びガイドに従って記載すること 提出ファイル：PDF ファイルサイズ10MB以下 脳に由来する生体情報の波形データ・グラフ等を記載いただきます 日本語で作成すること
	提案ソリューションに関する技術・アプリケーションのデモ動画	提案ソリューションの使い方や動作の様子を映像で示し、実装状況や活用イメージが分かる動画	<ul style="list-style-type: none"> ※詳細は後日公開いたします
	その他実験データやアルゴリズムコード	実験データ（取得した脳由来信号のデータ、ソリューションのデータ処理フロー（コード））	<ul style="list-style-type: none"> ※詳細は後日公開いたします
	倫理審査委員会証憑	倫理審査委員会証憑	<ul style="list-style-type: none"> 倫理審査の必要な検証を行っている場合、倫理審査委員会証憑を提出いただきます
本選プレゼン資料提出〆切	プレゼン審査書類	プレゼン審査の投影資料	<ul style="list-style-type: none"> ※詳細は後日公開いたします

デモ動画の撮影要領については後日公開いたします。

予選提案書様式目次(1/2)



提案書参照

I.本事業の提案内容サマリ 公開用		ページ	ページ数		
エグゼクティブサマリ		p.5	1枚		
II.本事業の提案書 審査用資料 非公開		ページ	ページ数	評価カテゴリー	提案書類の主な参考箇所
懸賞広告との合致性		p.7	1枚	事業評価	Ⅲ-1~9
脳由来信号を活用した提案ソリューションの革新性		p.8	1枚	事業評価	Ⅲ-1,2,4,5,7
新市場創出効果		p.9	1枚	事業評価	Ⅲ-2,3
実行体制・遂行能力		p.10	1枚	事業評価	Ⅲ-6,8,9
脳由来信号の科学的妥当性		p.11	1枚	技術評価	Ⅲ-2,3,7
研究開発計画の信頼性		p.12	1枚	技術評価	Ⅲ-5,7

予選提案書様式目次(2/2)



提案書参照

Ⅲ.本事業の提案書 審査用補足資料 非公開	ページ	ページ数
1 課題・背景	p.14	最大2枚
2 ソリューション概要・アウトカムの説明	p.15	最大2枚
3 ソリューションの革新性	p.16	1枚
4 社会インパクト及び社会実装アイデア	p.17	最大2枚
5 ソリューション研究開発及びアウトカム評価の実施計画	p.18	最大5枚
6 コンプライアンス体制に関する対応状況	p.19	1枚
7 本提案で取り扱う脳由来信号の説明	p.20	最大3枚
8 実行体制	p.21	実行体制1枚+主な参加者の詳細（各社最大2枚）
9 関連する技術についての権利関係及び研究開発実績	p.22	①関連する特許等の主要な権利関係・ノウハウ等の保有状況、②研究開発実績、 ①②合わせて最大2枚

	項目	審査の観点
事業評価	懸賞広告との合致性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組み概要は、本チャレンジのテーマにあった取り組みか
	脳由来信号を活用した提案ソリューションの革新性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存のニューロテックのユースケースと異なる、どのような新しい体験・適用領域を提供しているか
	新市場創出効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ ターゲットとなる市場の規模が十分に見込むことができるか ・ 提案されているソリューションは、ターゲットとなる市場やそのニーズを的確にとらえているものとなっているか ・ アウトカムの設定や社会実装アイデア等について、新規市場開拓に関する説得力の高い説明ができていますか
	実行体制・遂行能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究開発や事業開発について、実行可能な人材や関係者を含んだ体制になっているか ・ ソリューションやその開発に用いられる技術シーズが事業開発等において支障なく活用可能であるか（特許等の権利関係を含む）
技術評価	脳由来信号の科学的妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取得予定の生体信号が脳由来信号であることを明確に示し、取得・処理・解析の各工程が科学的根拠に基づいて実施されていること、さらに外来ノイズや他生体信号成分と区別して脳由来成分を分離・抽出できていることを客観的に説明できるか ・ 最終的なソリューションにおいて活用予定の信号が、脳情報（MRI/fMRI、EEG、NIRS、MEG）である等のチャレンジングな取り組みであるか
	研究開発計画の信頼性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本事業で実施する開発が、技術シーズの事業化及びその促進に寄与するものであり、具体的な計画を伴う提案となっているか

懸賞広告との合致性

- ・ **取り組み概要は、本チャレンジのテーマにあった取り組みか**
 - 個別の課題テーマ及び本懸賞金事業の考え方（脳由来信号の活用に関連する新市場開拓他）に合致した取り組みであるかについて、明確に説明されているか
 - **【以下の場合には採点対象外とする】**
ヘルシンキ宣言等の国際的な倫理基準に著しく違反する取り組み

脳由来信号を活用した提案ソリューションの革新性

- ・ **既存のニューロテックのユースケースと異なる、どのような新しい体験・適用領域を提供しているか**

新市場創出効果

本審査項目は以下2つの審査観点より評価を実施します。

①主張する市場規模

- ターゲットとなる国内市場の規模が十分に見込むことができるか（5年後で国内の1,000億円以上のSAM）

②市場性の具体性・説得力

- ①で評価された内容に対して、ターゲットとなる市場やそのニーズを的確に把握し、アウトカムの設定や社会実装アイデアについても説得力高く、客観的・具体的に説明できているか
- また、提供する社会インパクトやターゲットの市場における競合優位性を説明できているか

実行体制・ 遂行能力

- 研究開発や事業開発について、実行可能な人材や関係者を含んだ体制になっているか
 - 周辺領域も含めて、技術の特許等の権利関係や実行体制が整備されており、提案内容を計画通りに遂行できるか
- 提案ソリューションやその開発に用いられる技術シーズが事業開発等において支障なく活用可能であるか（特許等の権利関係を含む）
 - 倫理審査委員会等のコンプライアンス体制や、技術運用の体制が十分に整備されているか

p.4, 5参照

脳由来信号の科学的 妥当性

- 取得予定の生体信号が脳由来信号であることを明確に示し、取得・処理・解析の各工程が科学的根拠に基づいて実施されていること、さらに外来ノイズや他生体信号成分と区別して脳由来成分を分離・抽出できていることを客観的に説明できているか
- 最終的なソリューションにおいて活用している信号が、脳情報（MRI/fMRI、EEG、NIRS、MEG）である等のチャレンジングな取り組みであるか

研究開発 計画の 信頼性

- 事業で実施する開発が、技術シーズの事業化及びその促進に寄与するものであり、具体的な計画を伴う提案となっているか
 - 具体的かつ信頼性の高い研究開発計画が示されているか
 - ソリューション開発や検証内容、研究デザイン、スケジュール、アウトカムの評価方法等についても十分な説明と説得力があり計画の実現可能性が高いか
 - また、倫理審査委員会への相談、倫理審査状況、倫理審査委員会体制、プライバシーと自己決定権等の配慮、各所法規制への取り組みについても十分整備されており、万全な対応がなされているか

本選提案書様式目次(1/2)



提案書参照

I.本事業の提案内容サマリ 公開用		ページ	ページ数		
エグゼクティブサマリ		p.5	1枚		
II.本事業の提案書 審査用資料 非公開		ページ	ページ数	評価カテゴリー	提案書類の主な参考箇所
脳由来信号を活用した提案ソリューションの革新性		p.7	1枚	事業評価	Ⅲ-2,3,10
新市場創出効果		p.8	1枚	事業評価	Ⅲ-1,2,3,5,7,12,13
実行体制・遂行能力		p.9	1枚	事業評価	Ⅲ-6,8,9,13
脳由来信号の科学的妥当性		p.10	1枚	技術評価	Ⅲ-2,3,7,11
研究開発結果についての信頼性と今後の研究開発実現性		p.11	1枚	技術評価	Ⅲ-5,7,10,13

本選提案書様式目次(2/2)



提案書参照

Ⅲ.本事業の提案書 審査用補足資料 非公開	ページ	ページ数
1 課題・背景	p.13	最大2枚
2 ソリューション概要・アウトカムの説明	p.14	最大2枚
3 ソリューションの革新性	p.15	1枚
4 社会インパクト及び社会実装アイデア	p.16	最大2枚
5 ソリューション研究開発及びアウトカム評価の実施計画	p.17	最大5枚
6 コンプライアンス体制に関する対応状況	p.18	1枚
7 本提案で取り扱う脳由来信号の説明	p.19	最大3枚
8 実行体制	p.20	実行体制1枚+主な参加者の詳細（各社最大2枚）
9 関連する技術についての権利関係及び研究開発実績	p.21	①関連する特許等の主要な権利関係・ノウハウ等の保有状況、②研究開発実績、 ①②合わせて最大2枚
10 ソリューション研究開発及びアウトカム評価の実施内容	p.22	最大5枚
11 脳関連指標とアウトカムの関連性について	p.23	最大1枚
12 新市場開拓の実現性について	p.24	最大2枚
13 今後の展開（事業計画の実現性）	p.25	最大5枚

本選資料にて追加される項目

	項目	審査の観点
事業評価	脳由来信号を活用した提案ソリューションの革新性	<ul style="list-style-type: none"> 提案ソリューションが、既存のニューロテックのユースケースと異なりどのような新しい体験・適用領域を提供しているか
	新市場創出効果	<ul style="list-style-type: none"> 提案ソリューション開発を踏まえて、ターゲットとなる市場の規模が十分に見込むことができるか 提案ソリューションは、ターゲットとなる市場やそのニーズを的確にとらえているものとなっているか アウトカムとして示される結果を踏まえて説明される提案ソリューションの強みが、新規市場開拓に寄与するか 新市場創出に向けてメガベンチャー創出等の高い目標が設定されており、その実現に向けた計画が明確か
	実行体制・遂行能力	<ul style="list-style-type: none"> 今後の研究開発や事業開発について、実行可能な人材や関係者を含んだ体制になっているか ソリューションやその開発に用いられる技術シーズが事業開発等において支障なく活用可能であるか（特許等の権利関係を含む）
技術評価	脳由来信号の科学的妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 取得した生体信号が脳由来信号であることを明確に示し、取得・処理・解析の各工程が科学的根拠に基づいて実施されていること、さらに外来ノイズや他生体信号成分と区別して脳由来成分を分離・抽出できていることを客観的に説明できるか 最終的なソリューションにおいて活用している信号が、脳情報（MRI/fMRI、EEG、NIRS、MEG）である等のチャレンジングな取り組みであるか 得られた脳関連指標とアウトカムの関連性が十分に説明されているか
	研究開発結果における信頼性と今後の研究開発実現性	<ul style="list-style-type: none"> 提案ソリューション開発を踏まえて、本チャレンジ後のソリューション開発及び検証計画が、科学的に適切なものになっているか 提案ソリューションのデータ処理フロー（アルゴリズム）や結果の解析と解釈が科学的に信頼できるものになっているか
プレゼン評価	実行者としての個人・グループの資質	<ul style="list-style-type: none"> 意欲、情熱、リーダーシップ、柔軟性、論理力、協調性といった、将来「ニューロテック産業」を牽引する個人・グループとして十分な資質を有していること

脳由来信号 を活用した 提案ソ リューション の革新性

- ・ 提案されているソリューションが、既存のニューロテックのユースケースと異なりどのような新しい体験・適用領域を提供しているか

新市場創出 効果

本審査項目は以下2つの審査観点より評価を実施します。

①主張する市場規模

- 新規開拓市場の規模や成長性が大きいか（5年後で国内30億円の売上、経済波及効果は3,000億円規模）

②市場性の具体性・説得力

- ①で評価された内容に対して、アウトカム検証の結果として示される提案ソリューションの事業面での強みやユーザーの受容性が新規市場創出に貢献するか
- また、提供する社会インパクトやターゲットの市場における競合優位性を説明できているか

実行体制・ 遂行能力

- ・ 今後の研究開発や事業開発について、実行可能な人材や関係者を含んだ体制になっているか
 - 実行に必要な人材や関係者を含む強固な体制が構築されているか
（なお、これまでブレインテックの取り組み経験のない新規プレイヤーを巻き込んでいる提案は加点します）
- ・ 提案ソリューションやその開発に用いられる技術シーズが事業開発等において支障なく活用可能であるか（特許等の権利関係を含む）
 - 事業終了後も事業化の実現やさらなる展開が期待できるか
 - **倫理審査委員会を実施していない取り組みは、総合優秀賞の選考対象外とします。**
（※特別賞の対象にはなりません）

p.4, 5参照

脳由来信号の科学的妥当性

- 取得した生体信号が脳由来信号であることを明確に示し、取得・処理・解析の各工程が科学的根拠に基づいて実施されていること、さらに外来ノイズや他生体信号成分と区別して脳由来成分を分離・抽出できていることを客観的に説明できているか
- 最終的なソリューションにおいて活用している信号が、脳情報（MRI/fMRI、EEG、NIRS、MEG）である等のチャレンジングな取り組みであるか
- 得られた脳関連指標とアウトカムの関連性が十分に説明されているか

研究開発結果における信頼性と今後の研究開発実現性

- 提案ソリューション開発を踏まえて、本チャレンジ後のソリューション開発及び検証計画が、科学的に適切なものになっているか
 - 研究開発の内容は、科学研究として信頼性が高いか
 - 本チャレンジ終了後の事業化の達成やその後の展開についても期待できるか
- 提案ソリューションのデータ処理フロー(アルゴリズム)や結果の解析と解釈が科学的に信頼できるものになっているか
 - 提案ソリューションのデータ処理フロー(アルゴリズム)について、詳細かつ論理的に構築されており処理手順や根拠が明確か

実行者としての個人・グループの資質

- 意欲、情熱、リーダーシップ、柔軟性、論理力、協調性といった、将来「ニューロテック産業」を牽引する個人・グループとして十分な資質を有していること
 - プレゼン・Q & Aのクオリティ及び人柄（意欲・情熱・リーダーシップ・論理力・協調性等）が優れており、将来ニューロテック産業を牽引する実行者としての資質が十分に備わっており、事業の展開に期待できるか